

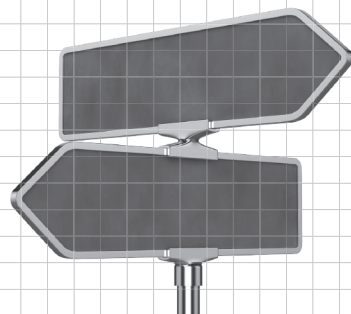
比較でわかる「悪い設計」と「良い設計」

「金型」、「成形加工」、「樹脂」。それぞれの素性をよく知り理解したうえで、実現したい製品を設計することが肝要である。

本連載は設計事例の比較を通して、これら素性（構造や仕組み、特性、特徴など）を自ら考えることにより気づきや学びを得て、製品設計に活かすことを目的とする。

伊藤英樹技術士事務所 所長
伊藤英樹 Hideki Ito

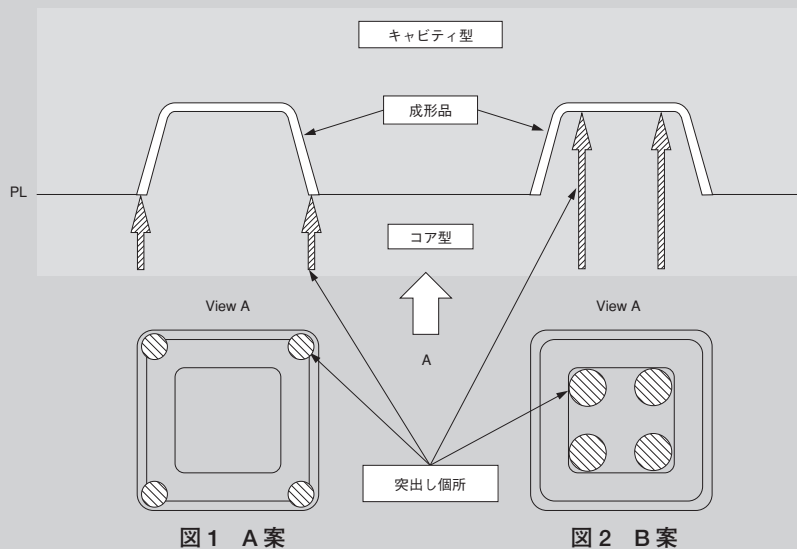
〒970-8026 福島県いわき市平字正月町36-1
サンクレイドルいわきレジスタ1101
TEL(0246)88-6165 E-mail:dick-ito2@apost.plala.or.jp



第5回 透明なデザイン

向こうが透けて見えることは、製品イメージの良し悪しだけでなく、建設現場で「出会い頭の衝突を防ぐ」というような使い方にもつながる。「透明」は目的を達成するための重要な設計要素の一つである。

問. ①A案とB案。どちらが良くない設計か？ ②なぜ良くないのか？



▲図1および図2の簡単な説明
A案、B案ともに成形品形状（樹脂材料は透明グレード）は同じ。エジェクタピンによる突出し仕様が異なる

解説

図1および図2は、成形品を金型（コア型）から離る様子である。どちらの突出し仕様でも離型は可能である。なお、顧客からのデザイン要求により透明グレードの樹脂を使うこととなった。顧客がデザイン

に託した意図は何かをつかみ、製品設計および金型設計により一つひとつ具体化していくことが大切である。

1. 透明とは

透明とは「物体の内部や向こうが透けて見えること」である。通常、以下のような呼び方により、透けて見える程度（透明性）がおおよそ区別され、人は透明性